

研究所の沿革

松下嘉米男

統計数理研究所は、昭和十九年六月五日に創設され、所長以下所員六名、助手六名、書記二名以下若干名を以つて発足した。

研究所庁舎は戦時中の爲新設されず上野公園内にある学士院の建物の一部を借用研究業務を開始したが、翌二十年三月に大部は長野縣飯田市に疎開し残部は小石川の細川邸の建物の一部尚事務は東大図書館内の一部を借り業務を遂行した。

戦争終了後昭和二十年十一月飯田市より全員引揚げ研究所全員細川邸の建物へ移転し、同時に研究部門を第一部、第二部、第三部門に分け研究を遂行した。

次いで昭和二十一年一月第二部が重垢ビルの一部へ移転し、又昭和二十二年四月には世田谷区三軒茶屋の元陸軍部隊の庁舎の一部を借用研究所附属として統計技術員養成所を設置用所した。

昭和二十三年二月には事務部が三軒茶屋へ移転尚二十四年五月には第三部も同所へ移転した。

昭和二十四年九月には第一部、第二部、は小石川の細川邸より世田谷区祖師谷所在の労働医学心理学研究所の一部へ移転昭和二十六年六月には事務部も三軒茶屋より同所へ移転した。

此の間人員も増加し現在所長以下所員十一名助手十八名を始め総員七十五名になり発足後庁舎問題並びに戦争中及戦後の世祖の状態より脱却し人員の充実と共に研究業務へ邁進する礎につき得た次第である。

現在研究所の機構は、

庶務部、研究第一部、研究第二部、研究第三部及附属養成所に分れ、

第一部は基礎理論

第二部は自然科学方面への応用

第三部は社会現象への応用の研究

をしており、又その成果は

英文の *Annals of the Institute of Statistical Mathematics*、
邦文の研究録、及び研究輯報に夫々発表してゐる。